

# 日本口腔検査学会第16回学術大会

## 歯科衛生士セッション（抄録）

今大会の歯科衛生士セッションは前大会に引き続きまして、ラウンドテーブルディスカッションを企画いたします。テーマは「口腔検査への歯科衛生士の関わり」としました。

私たちが日頃から関わっている口腔検査の種類や内容に関しての情報交換、歯科医師との正確な情報共有のための工夫の仕方や、知りえた情報の管理法、さらに日頃どのような点に配慮をして患者さんと対応しているのかなど、それぞれの現場で実践していることを活発なディスカッションを通して共有できる機会になればと思います。

とりわけ関わる人々とのコミュニケーションの重要性に関しては言うまでもない事ですので以下のお話をさせていただきます。

日立製作所の矢野和男フェローのハピネス（幸福度）分析によると、人が幸せと感じる度合いを測る技術が開発されたと言われています。気持ちが弾んだり、軽やかな気分になったりすると、無意識のうちに微小な身体のゆらぎが現れる、その動きをスマートフォンに内蔵したセンサーがつかみ、心の状態をデータで示すというものだそうで、このゆらぎを測定した結果、人が幸せを感じる職場にはいくつかの特徴があると言います。対等な人間関係があって、5分程度の短い会話が頻繁に交わされている、話すときは体の動きも相手に同調させながらが多い・・・・・・・・。

人は置かれた状況への満足度が高いほど、いい仕事ができ、能率も上がるといわれます。

良好な医療面接で患者も術者も幸福になればどんなに仕事が楽しくなるでしょうか。そのような心意気で歯科衛生士セッションに臨んでいただけたらと願っております。

## ディスカッションの様子



